

Power Spectrum

FFT

Hilbert Transformation

Curve Fitting

振動

Modal Analysis

Noise Criteria

音響

Subjective Evaluation

Sound Quality

ONO SOKKI

音響・振動 技術セミナー

Cコース

＜音の測定の基礎と実習＞

本セミナーでは、製品や機械設備などから発生する騒音、建物内の騒音、環境における交通騒音などに対して、音響計測による現象把握、評価方法、騒音に関わる問題解決に必要な基礎知識をご提供します。

座学によって得た知識を、実感して頂く場として、音響実験室（無響室、半無響室、残響室）にて、音の減衰や干渉など基本的な性質や音の物理現象をご自身の耳で確認し、実際に計測器を用いて測定をご体験いただきます。

騒音や音の問題に関わっていらっしゃる皆様に、ぜひ本セミナーを受講していただき、基礎技術を深めていただけますよう、ご案内申し上げます。

10月15日
午後

講師：石田康二 小野測器（工学博士）

音響測定を扱う工学分野は、環境・生活騒音や機器発生騒音の低減など「騒音制御」の領域、製品や設備の品質維持・向上のための「騒音検査・評価」の領域、さらには、良い音を創造する装置であるオーディオやホールだけでなく、近年は、機械発生音を快音化する「音創り」の領域が注目されています。音を扱う場がどのような領域であっても、その基本的な性質を知ることが必要です。

伝搬、反射、吸音、透過といった音の物理的な基本的な性質、また、人間の聴覚の特性とそれを元にした音の評価量を解説いたします。

- 現代の騒音問題と騒音に対する考え方
- 音の基本量
- 音の特徴と性質、音場
- 聴覚の特性と評価量
- 実験室における計測事例（材料の音響性能・音響パワーレベル）

10月16日
終日

講師：株式会社小野測器
コンサルティンググループ

騒音の問題解決を実務とする音のコンサルタントが講師となり、無響室、半無響室、残響室という大変ユニークな音の特徴を持つ実験室で実習を行います。そのような音場で、音の性質、挙動を体感することは、実際の現場での音質改善（音創り）や音の対策などを進める上で大変有益な経験になります。また、体感による感覚と数値（物理量）の関係が確認できるように、騒音計を2名に1台ご用意します。耳を傾け手を動かしながら学んでいただけるセミナーです。

- 音の基本的な性質（距離減衰、干渉、回折、指向性等）
- 音場の違いによる音響の差異

石田 康二 講師紹介

1983年関西大学大学院修士課程修了後1999年まで東急建設技術研究所に勤務し、東急文化村オーチャードホール、横浜みなとみらいホールなどの音響設計に従事。その間、1990年英サalford大学応用音響学部、1991年～1993年英ケンブリッジ大学芸術歴史学部(博士)へ留学。1999年より小野測器で主にコンサルティング・技術開発を担い、現在に至る。日本騒音制御工学会会長、日本音響学会評議員。一級建築士、PhD